

カンキツ育苗期間中の新系統薬剤の防除効果(1)

現在、育苗期間中のカンキツの害虫に対する一般的な防除体系は、モスピラン、ダントツ、アクタラといったネオニコチノイド系の殺虫剤が主体であるが、系統が同じ剤の連用となるため、薬剤抵抗性の発達が懸念されている。そこで、ネオニコチノイド系とは異なる作用機構を持つ殺虫剤について、育苗期間中の主要害虫に対する防除効果を検討した。

チョウ目害虫に対する効果は高いがアブラムシ類に弱い！

ミカンハモグリガ 被害度

H29年9/6,9/13散布、9/27調査

アゲハ類 生存率(%)

H30年9/14処理,9/21調査(室内試験)

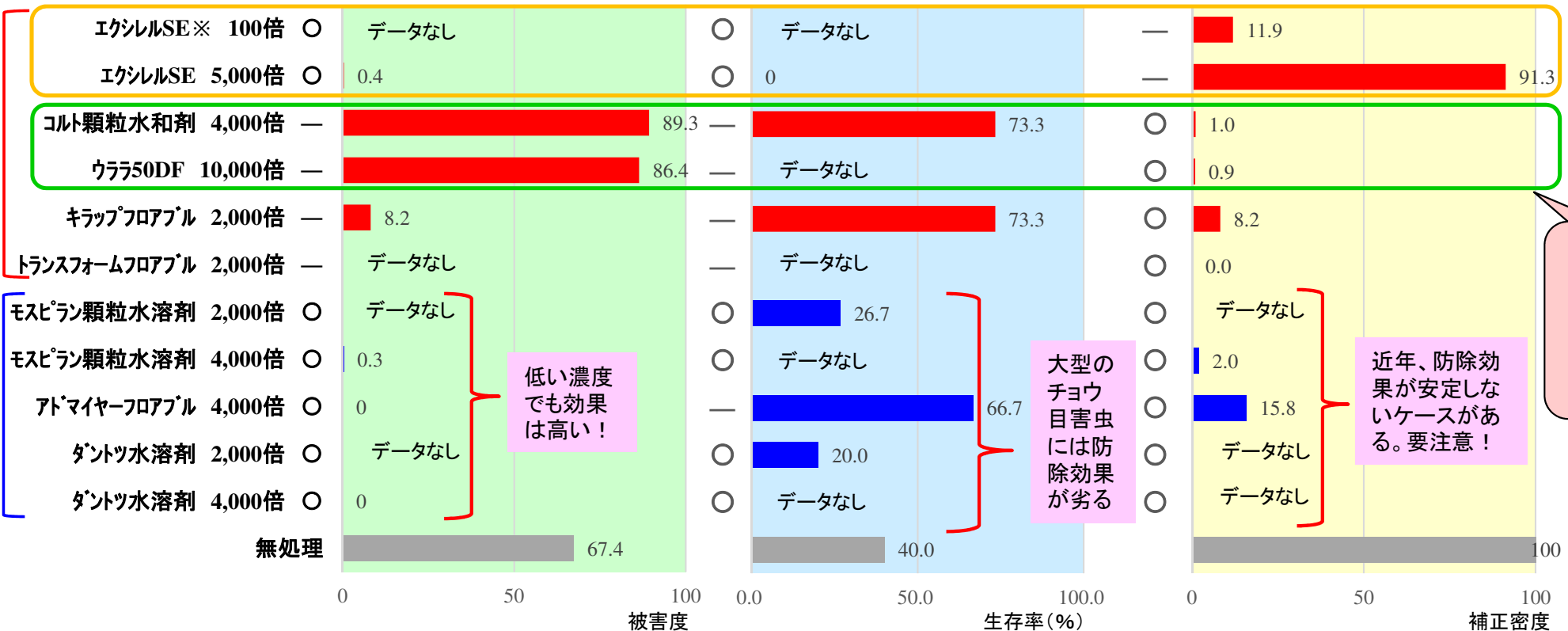
ユキヤナギアブラムシ 散布後補正密度

R元年8/22薬剤散布、8/29調査

農薬登録

農薬登録

農薬登録



低い濃度でも効果は高い！

大型のチョウ目害虫には防除効果が劣る

近年、防除効果が安定しないケースがある。要注意！

アブラムシ類に対する効果は高いがチョウ目害虫に弱い！

※エクシレルSE 100倍は、かんきつ(苗木)登録がある。

エクシレルSEとアブラムシ類に効果が高い薬剤を組合せることで、育苗期の防除に高い効果が期待できる！